



萬古陶磁器振興協同組合連合会(藤井健司理事長)は、9月29日(土)~12月28日(金)に、ばんこの里会館(四日市市陶栄町4-8)3階ホールにて、「萬古焼の粋(いき)」一陶祖 沼波弄山翁から現在、未来に繋がる萬古焼一を開催します。

これは、平成30年に萬古焼創始者である沼波弄山翁の生誕300年を迎えることを契機に催す“BANKO 300th”プロジェクトで、大正・昭和時代の影の人気商品だった、重箱や手あぶり火鉢など、知られざる萬古焼の魅力を見ることができます。また、昔使用していた、萬古焼の作業道具等の展示もされており、今までは

違う方向から萬古焼を知ることができます。

また、ふれあい事業として、10月12日(金)~14日(日)の3日間開催される、「HALLO!!FACTORY!!」は、新しいモノづくりを生み出す場である工場の見学の他、ものづくり体験や料理教室などが体験できます。

事務局長の石崎和豊氏に今回のプロジェクトに伺うと、「萬古焼の産地の伝統と思いをつなぐプロジェクト。知って体験して、一緒に萬古焼の歴史を紡いでいき、未来につなげてほしい。」と話されました。

萬古陶磁器
振興協同組合
連合会

「萬古焼の粋(いき)」
一陶祖 沼波弄山翁から現在、未来に繋がる萬古焼一



取引力強化推進事業を活用して『「道の駅あやま」の
組合員店舗とその商品の魅力を発信』

阿山物産
振興協同組合

事業概要 オリジナルの屋外立看板・のぼり旗の作製・設置

成果 組合員においては、年末イベント及び新春の書初め大会において作製したのぼり旗及び看板を設置したことにより、「道の駅あやま」の前を通行する自動車や道の駅のトイレ利用者等の多くの人に、組合員名及び組合員商品を宣伝することができ、組合員商品の知名度向上及び共同販売する組合員商品の販売促進に繋がりました。

組合においては、イベント時に、道の駅前の通行者や道の駅のトイレ利用者等からも目に留まる場所に屋外立て看板とのぼり旗等を設置することにより、組合員商品を認識してもらい、組合員商品を手にする機会を作ることができ、共同販売事業の収益増加に繋がりました。また、旗及び看板を設置することで、「道の駅あやま」の敷地内に華やかさが増し、商品販売スペースに足を運ぶ来客者も多く見られ、イベントの活性化にも繋がっています。

なお、看板及び旗の作製は組合員商品に限定することによって、組合員外の「道の駅あやま」出品業者と差別化をより明確にすることができ、組合員からは、「組合加入のメリットが分かりやすい。今後も組合活動に積極的に協力していきたい。」という声もあり、組合員の組合脱退や組合離れの防止を図ることができました。

今後の取組みの方向 今後はイベント時以外にも旗及び看板を設置することにより、組合員商品の知名度向上を図り、組合の共同購買事業収入の収益増加に繋げ、また、組合員を対象に組合が費用を負担して旗及び看板を作製することを呼びかけ、組合員外の「道の駅あやま」出品業者と差別化をすることで、組合への加入促進に繋げていき、より多くの出品業者が協力して「道の駅あやま」を盛り上げる体制づくりを強化していきます。



看板